

要旨

【目的】

本研究の目的は、新人看護師に対する対話リフレクションを用いた教育的支援の過程の記述を通して、日勤勤務の申し送り後から昼休憩までの看護実践においての、新人看護師の優先順位の判断のための臨床的思考力を育成する教育的支援とは何かを明らかにすることである。

【研究方法】

都内にある A 病院の内科系一般病棟 B に勤務する、研究同意を得られた入職後 4 か月目の新人看護師 3 名を対象に、優先順位の判断が必要な場面において、Ambrose の学習原理を参考に作成した枠組みを用いて対話リフレクションを行い、その様子を記述し、分析した。また、支援後に新人看護師に対して聞き取りを行い、逐語録を分析した。研究期間は、2016 年 7 月下旬～9 月上旬であった。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を受けて行った（承認番号 16-A029）。

【結果】

Ambrose の学習原理を参考に作成した枠組みを用いて対話リフレクションを実施した結果、優先順位を判断する際の思考や行動の変化として【疾患や薬剤などの知識をもとに思考する】、【患者の視点から優先順位を思考する】、【自分の受け持ち患者全体を把握したうえで思考する】、【ルーティンとして時間やタスクに縛られずに、臨機応変に判断する】【午後に余裕をもって業務を行う】が得られた。また、新人看護師が認識する対話リフレクションの教育的支援の効果は【自分の思考や感情を言語化することで、自らの実践を見直すことが出来る】、【その場の状況を踏まえて、熟達者と一緒に思考することが出来る】、【リフレクションを行う習慣が身に付く】であった。

【結論】

日勤勤務の午前中という新人看護師にとって多忙なコンテキストの中で対話リフレクションを用いて新人看護師の知識の体系化を促すことが、新人看護師の優先順位の判断における臨床的思考力育成につながり、新人看護師が余裕をもって質の高い看護実践を患者に提供することにつながると考えられた。本研究のように枠組みを利用した教育が、リフレクションの支援スキル体得に繋がり、熟達者が新人看護師への理解を深め、新人看護師のレディネスを捉えた学習者中心の教育的支援の実践に繋がると示唆された。